

(様式第9)

東北病医 466号  
平成22年10月5日

東北厚生局長 殿

開設者名 東北大学病院長  
里見 進

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	90.3 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	353人	165人	510.5人	看護補助者	84人	診療エックス線技師	人
歯科医師	103人	82人	178.2人	理学療法士	21人	臨床検査技師	93人
薬剤師	76人	1人	76.7人	作業療法士	6人	衛生検査技師	3人
保健師	人	人	人	視能訓練士	10人	その他	人
助産師	58人	1人	58.7人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	980人	20人	993.7人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	17人
准看護師	4人	人	4.0人	栄養士	人	その他の技術員	94人
歯科衛生士	5人	9人	11.3人	歯科技工士	7人	事務職員	275人
管理栄養士	8人	人	8.0人	診療放射線技師	59人	その他の職員	54人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	1,006.1人	22.9人	1,029.0人
1日当たり平均外来患者数	2,236.7人	204.9人	2,441.6人
1日当たり平均調剤数	1140.2 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インプラント義歯	4人
人工括約筋を用いた尿失禁手術	3人
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	7人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	7人
膀胱水圧拡張術	10人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	13人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	肺癌患者検体のEGFR遺伝子変異検索に関する研究	取扱患者数	240人
当該医療技術の概要			
肺癌患者から採取した癌細胞のEGFR遺伝子変異を調べた上で適切な治療方針を決定している。			
医療技術名	大量出血を伴う手術の麻酔管理	取扱患者数	58人
当該医療技術の概要			
出血量5000ml以上の危機的出血に対し、麻酔科が主体となって、関連する検査部、輸血部と連携して患者を救命する。患者の生命が危機的状況にある場面においても、多数の麻酔科医を動員して緻密な麻酔管理を行うことにより、合併症を最小限に抑える。			
医療技術名	乳癌のHER2遺伝子増幅の有無に関するFISH検査	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要			
乳癌組織(パラフィンブロック)を用いHER2遺伝子の増幅を調べる検査。免疫組織化学染色でHER2の発現を検索し、0、1+、2+、3+の4段階に分類。このうち、0、1+はHER2陰性と判断、3+は陽性と判断。2+のみ、FISH検査を追加し、HER2遺伝子の増幅を検索し、陽性、陰性に分類。免疫組織化学染色で2+のうち、FISHで陽性と判明するのは1/3、残りの2/3はFISH陰性(HER2陰性)と判定される。FISH検査は高額なため、まず、免疫組織化学染色で選別してから、3+のみをFISHの対象にしているが、これは、日本の乳癌診療ガイドライン、ASCOガイドラインなどで推奨されている手法である。			
医療技術名	骨軟部腫瘍、脳腫瘍に対するFISHによる悪性遺伝子検査	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要			
骨軟部腫瘍においては、滑膜肉腫やユーイング肉腫など、遺伝子学的な検査が診断に必須なものがあり、診断確定の目的で行う検査である。また脳腫瘍に関しては、乏突起膠細胞腫における特異的な遺伝子変化が、組織診断の確定のみならず治療効果に関係しており、診断確定、治療方針の決定や予後予測のために必須な検査である。			
医療技術名	覚醒下脳外科手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
脳に存在する機能野(言語野、運動野)を手術中に同定するために、患者を覚醒させ手術をおこなう技術。脳神経外科医の他に、神経麻酔医、脳波技師、高次脳機能学を専門とする医師の参加が必要となる。			
医療技術名	高精度生体計測法(超音波生体顕微鏡):動脈硬化症および血管炎における動脈壁内部の組織ならびに機能変化の非侵襲的高精度計測	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
超音波を利用して血管壁における複数の計測点の動きを追跡し、そのトラッキング波形の差から血管壁の組織性状を非侵襲的かつ定量的に診断する。これまでの検討から、本測定法は微細な変化を評価できることが明らかにされており、早期の動脈硬化診断や薬剤の治療効果判定に有用であると考えられている。			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
内視鏡的逆行性胆管造影(ERCP)に引き続き内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)を施行後、バスケットやバルーンで結石を除去する治療する方法で、ハイレベルな医療治療技術が必要である。			
医療技術名	体外衝撃波による膵石粉碎術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
ESWLを用いて膵石を破砕する治療法で、ハイレベルな医療治療技術の人的、物理的集積が必要である。			

医療技術名	内視鏡的粘膜切開剥離法	取扱患者数	229人
当該医療技術の概要 早期食道癌および早期胃癌を内視鏡的に剥離、切除する治療法で、ハイレベルな医療治療技術の人的、物理的集積が必要である。			
医療技術名	高度進行肝細胞癌に対する集学的動注化学放射線療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 新規分子標的薬の使用を含め、総合的な治療技術の集積が必要である。			
医療技術名	肝癌に対するリアルタイムバーチャルソノグラフィ	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 肝癌におけるCTと腹部超音波検査の画像をリアルタイムで同期可能な、当院で開発した検査法である。			
医療技術名	手の先天異常に対する手術加療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 手の先天異常に対する手術加療を行っている。			
医療技術名	唇顎口蓋裂に対するチームアプローチによる集学的治療	取扱患者数	108人
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂に対するチームアプローチによる集学的治療を行っている。			
医療技術名	唇顎口蓋裂による上顎低形成に対する顎矯正手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂による上顎低形成に対する顎矯正手術を行っている。			
医療技術名	高度上顎低形成患者に対する上顎仮骨延長術による治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 高度上顎低形成患者に対する上顎仮骨延長術による治療を行っている。			
医療技術名	気道狭窄に対する内ステント留置術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 気道狭窄に対してシリコンステントあるいはメタリックステントを留置し、狭窄改善する。			
医療技術名	婦人科癌におけるセンチネルリンパ節同定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 新しい方法による医療で、外国で開発され、医学的効果が認められているが、日本では普遍化されていない医療。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植術(採取・調整・保存)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 患者循環血液量の2倍の血液を一定の速度で連続的に体外循環させ、造血幹細胞分画を採取したあと、輸血部細胞プロセッシングセンターにおいて調製、凍結保存し、移植日まで超低温フリーザー内で保管管理する。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植術(分離・調整・保存)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 G-CSF投与により末梢血幹細胞を動員採取した細胞を分離し、凍結保存する。			
医療技術名	前立腺癌に対する強度変調放射線療法(IMRT)	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 強度変調放射線を用いることで自由度の高い放射線線量分布を達成し、直腸・尿道など前立腺周囲重要臓器の被ばく線量低減を図りながら腫瘍線量を増加することで、進行前立腺癌の治療成績を向上させる放射線療法。			

医療技術名	悪性黒色腫およびその他の皮膚癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要			
腫瘍周囲の皮下に tracer を投与し、リンパ流によって移動した tracer で標識されたリンパ節を同定して転移の検索を行う。			
医療技術名	遠隔病理診断(テレパソロジー)	取扱患者数	212人
当該医療技術の概要			
テレパソロジー(遠隔病理診断)は地方の病院から遠隔操作により病理画像を伝送し、病理診断を行う遠隔医療の一つである。これにより、病理医が不在の病院における術中迅速診断を可能とし、病理医不足と偏在を補うとともに、地域病院の医療の質の向上、地域医療への貢献に寄与するものである。			
医療技術名	狭心症に対する体外衝撃波治療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
低出力の体外衝撃波を用いた血管新生療法。心筋血流と狭心症症状の軽減を目的とする。			
医療技術名	急性心筋梗塞に対する体外衝撃波治療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
低出力の体外衝撃波を用いた血管新生療法。心筋梗塞慢性期の心不全増悪抑制を目的とする。			
医療技術名	下肢閉塞性動脈硬化症に対する体外衝撃波治療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
体外衝撃波発生装置を用いて下腿の虚血部位の筋肉に対し、0.05mJ/mm <sup>2</sup> 程度の衝撃波を照射します。照射は1回8000発の照射を週に3回、3週連続で行っています。9回の照射で合計72000発を照射しています。両名とも歩行距離の延長が見られ、治療に付随する合併症もなく経過観察期間を終了しています。			
医療技術名	精神病発症危険群に対する早期介入	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要			
精神病発症危険群のための評価尺度CAARMSを用いた診断を行い、精神病発症危険に向けた認知行動療法などのガイドラインにしたがった治療を実施し、精神病発症の予防および発症後の早期介入による予後改善を図る。			
医療技術名	放射免疫療法	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
抗CD20モノクローナル抗体に、放射性同位元素 <sup>90</sup> Yを結合。抗体の体内分布が適切な患者に投与する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要			
同種、血縁、非血縁の骨髄幹細胞、末梢血幹細胞を、前処置後に投与する。			
医療技術名	WT1ペプチドワクチン治療	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要			
HLA-A2402を有し、標準的な抗がん剤に耐性となった進行膵癌の患者に対し、直前の化学療法と併用しながらWT1ペプチドワクチンをモンタナイドアジュバントとともに両側腋窩、腹部、ソケイ部の6か所に皮内注射する免疫療法。開始時のPerformance Statusがよい場合は、8か月の生存期間中央値が期待できる。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
膵良性疾患もしくは低悪性度腫瘍に対し、腹腔鏡下に膵尾側と併に腫瘍を摘出もしくは腫瘍のみを核出する手術である。従来の開腹手術と比較し、手術侵襲が軽度で整容性に秀でているのが特徴である。			
医療技術名	-絨毛膜双胎に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
ハイレベルの総合医療技術及び資源(人的、物的)の集積を必要とするもの。			

医療技術名	腸管不全に対する多角的治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 サイクリックTPN、 $\omega$ 3系脂肪製剤の使用による腸管不全に伴う肝障害の予防および治療。成長ホルモンや新規ビフィズス菌投与によるプロバイオティクスによる腸管機能改善。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞移植術(分離・調整・保存)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ドナー循環血液量の2倍の血液を一定の速度で連続的に体外循環させ、造血幹細胞分画を採取したあと、輸血部細胞プロセスセンターにおいて調製、凍結保存し、移植日まで超低温フリーザー内で保管管理する。			
医療技術名	腹式広汎性子宮頸部摘出術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 浸潤子宮頸癌症例に対する子宮温存術式。ハイレベルの総合医療技術及び資源(人的、物的)の集積を必要とするもの。			
医療技術名	人工内耳埋め込み術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 高度難聴者の聴覚再獲得のために、人工内耳埋め込み術と聴覚のリハビリテーションを行っている。			
医療技術名	顆粒球輸注(採取)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 健常人ドナーの末梢血液を連続的に体外循環させ、顆粒球分画を採取する。顆粒球分画は放射線照射の後、重症感染症の治療を目的として患者に輸注される。			
医療技術名	ドナーリンパ球輸注(採取)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 造血幹細胞移植後に発生した白血病再発治療を目的として、ドナーより採取したリンパ球が患者に輸注される。リンパ球はドナーの末梢血液を連続的に体外循環させ、リンパ球分画より採取する。			
医療技術名	白血球除去(白血病細胞アフェレーシス)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 化学療法に先行する形で、白血病患者末梢血中で極端に増殖した白血病細胞を、患者末梢血液を体外循環させながら排除する操作である。			
医療技術名	血液型不適合骨髄移植(赤血球除去)	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 ABO・Rh(D)血液型主不適合骨髄移植の際に、ドナー由来赤血球溶血反応を回避する目的で、移植前の骨髄からアフェレーシス装置により、赤血球を除去する操作である。			
医療技術名	血液型不適合骨髄移植(血漿除去)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ABO血液型副不適合骨髄移植の際に、患者由来赤血球溶血反応を回避する目的で、移植前の骨髄から遠心操作により血漿を除去する操作である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ペーチェット病	133人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	220人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	183人	・原発性胆汁性肝硬変	106人
・全身性エリテマトーデス	489人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	6人	・特発性大腿骨頭壊死症	81人
・再生不良性貧血	61人	・混合性結合組織病	50人
・サルコイドーシス	266人	・原発性免疫不全症候群	30人
・筋萎縮性側索硬化症	64人	・特発性間質性肺炎	71人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	246人	・網膜色素変性症	113人
・特発性血小板減少性紫斑病	128人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	58人	・肺動脈性肺高血圧症	51人
・潰瘍性大腸炎	563人	・神経線維腫症	36人
・大動脈炎症候群	95人	・亜急性硬化性全脳炎	2人
・ピュルガー病	40人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	6人
・天疱瘡	37人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	26人
・脊髄小脳変性症	164人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	432人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3人
・悪性関節リウマチ	21人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	319人	・球脊髄性筋萎縮症	7人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	14人
・後縦靭帯骨化症	47人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	9人	・拘束型心筋症	— 人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	127人	・ミトコンドリア病	— 人
・ウェゲナー肉芽腫症	11人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	8人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	161人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	— 人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	62人	・黄色靭帯骨化症	— 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	96人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・生体部分肺移植	・
・強度変調放射線治療	・
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(泌尿生殖器腫瘍(腎腫瘍、前立腺がん又は副腎腫瘍)に係るものに限る。)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	355回
部 検 の 状 況	部検症例数 49 例 / 部検率 6.90%

(様式第11-1)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元
へムによる液性免疫応答制御の解明	五十嵐和彦	生物化学分野	22,490	補委 文部科学省
POPsとメチル水銀の周産期混合ばく露における母子移行動態モデルの構築	佐藤洋	環境保健医学分野	16,250	補委 文部科学省
非喫煙者肺腺癌の生物学的事象:なぜEGFR変異は肺腺癌と東アジア人に集積するか?	貫和 敏博	呼吸器病態学分野	18,200	補委 文部科学省
脳実質内薬物送達システムの開発	富永悌二	神経外科学分野	7,930	補委 文部科学省
脳機能画像法と神経心理学的研究によるエピソード記憶の神経基盤の解明	藤井俊勝	高次機能障害学分野	4,810	補委 文部科学省
神経幹細胞の増殖と分化を制御する脂肪酸および脂肪酸結合タンパク質の機能解析	大隅典子	形態形成解析分野	7,280	補委 文部科学省
心障害モデルの運動療法と血管作動物質発現の関係の検討	森信芳	内部障害学分野	4,030	補委 文部科学省
造血細胞の分化・成熟プログラムにおける生体内環境応答機構の役割	本橋ほづみ	RIセンター	7,930	補委 文部科学省
T細胞共刺激分子を標的とした炎症性腸疾患発症制御	石井直人	免疫学分野	7,930	補委 文部科学省
急増する前立腺がんに対するPSA検診の意義に関する医療経済学的検討	濃沼信夫	医療管理学分野	8,190	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
最新技術による分子・個体レベルの統合的ヒスタミン研究と神経変性疾患への応用	谷内一彦	機能薬理学分野	7,280	補委	文部科学省
ソーシャルキャピタルが高齢者の要介護発生リスクに及ぼす影響に関する社会疫学研究	辻一郎	公衆衛生学分野	8,190	補委	文部科学省
生活習慣病と心腎連関の機序の検討	伊藤貞嘉	腎・高血圧・内分泌学分野	9,620	補委	文部科学省
造血型GATA転写因子の機能破綻に起因する白血病発症メカニズムの解析	清水 律子	病態検査学分野血液学	6,370	補委	文部科学省
ヘモグロビン型人工赤血球を用いた妊娠高血圧症に伴う胎児低酸素へのナノマイクロ治療	岡村州博	周産期医学分野	7,540	補委	文部科学省
統合失調症罹患感受性を増強する環境因子のエピゲノムへの刻印の特定	富田博秋	精神・神経生物学分野	6,370	補委	文部科学省
次世代自己・バルーン拡張型薬剤溶出被覆ステントの開発と安全性試験	石橋忠司	画像診断技術学分野	5,460	補委	文部科学省
レチノイン酸ミセルを用いたCED法による膠芽腫新規治療法の開発	隈部俊宏	神経外科学分野	2,990	補委	文部科学省
PSAを凌駕する新しい前立腺癌マーカー「RM2ハプトグロビンペーター」	荒井陽一	泌尿器科学分野	6,240	補委	文部科学省
部分的内耳切断時の内耳保護に関する基礎的研究	小林俊光	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	7,540	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
バイオフィilm制御による新しい創傷管理法の開発	館正弘	形成外科学分野	8,710	補 委	文部科学省
助産師外来における助産師のメンタルケアサポート体制の確立	齋藤秀光	家族・発達精神看護学分野	3,120	補 委	文部科学省
アジアにおけるインフルエンザウイルスの疫学解析ネットワークの構築	鈴木陽	微生物学分野	5,720	補 委	文部科学省
経時的に呈示されるオブジェクトのカウンティング神経機構	嶋啓節	生体システム生理学分野	2,210	補 委	文部科学省
進行性腎疾患における腎臓リハビリテーションの有効性の機序解明	金澤雅之	内部障害学分野	2,340	補 委	文部科学省
マウス小腸絨毛各部のIELの同定:部位の違いによる形態的性状と機能の差異	伊藤恒敏	発生生物学分野	2,210	補 委	文部科学省
患者中心医療を促す医師・医学生のEmotional Intelligence分析	石井誠一	医学教育推進センター	2,340	補 委	文部科学省
食道・胃接合部で限局性に発生する一酸化窒素による発癌への影響	飯島 克則	消化器病態学分野	2,340	補 委	文部科学省
胆汁うっ滞性肝疾患病態形成における内因性レトロウイルス遺伝子の関与の検討	上野 義之	消化器病態学分野	2,470	補 委	文部科学省
ハンチントン病の舞踏症状に対する漢方薬の効果の検証	岩崎鋼	先進漢方治療医学寄附講座	2,080	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
生体におけるリン調節機構の解明と遺伝性低リン血症性くる病の新たな治療法の開発	藤原幾磨	小児病態学分野	2,080	補委	文部科学省
X線CTの画像雑音(被曝)を低減する画像再構成法	森一生	医用画像工学分野	2,340	補委	文部科学省
心臓移植後冠動脈病変に対するプロテオグリカン「デコリン」による遺伝子治療法の開発	川本俊輔	心臓血管外科学分野	2,080	補委	文部科学省
生体吸収性ステントラッピング法による冠動脈バイパスグラフトの遠隔予後改善の研究	井口篤志	心臓血管外科学分野	2,730	補委	文部科学省
心臓大血管周術期腎障害の機序解明と新たな腎保護ストラテジーの確立	本吉直孝	心臓血管外科学分野	3,770	補委	文部科学省
高齢者における夜間頻尿と死亡率・骨折発生との関連—大規模疫学調査からの検討—	浪間孝重	泌尿器科学分野	2,080	補委	文部科学省
放射線治療における晩期有害事象早期発見のための看護アセスメント確立の試み	関亦 明子	看護アセスメント学分野	3,120	補委	文部科学省
新規抗体医薬品と革新的免疫染色法を用いたがん治療法の開発	権田幸祐	ナノ医科学寄附講座	3,500	補委	文部科学省
質量分析による膵液中変異蛋白の網羅的解析と膵疾患早期診断法の確立	下瀬川徹	消化器病態学分野	2,000	補委	文部科学省
細胞外カルシウムによる腎尿細管細胞間隙ナトリウム輸送調節機構の発見と解析	根東義明	医学情報学分野	3,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
酸素センサー分子Keap1の活性阻害薬の探索:酸化ストレスの薬物制御	宮田敏男	分子病態解析分野	3,100	補 委	文部科学省
新規のレーザー衝撃波液体ジェットメスを用いた食道癌に対する粘膜下層剥離術の開発	宮崎 修吉	先進外科学分野	2,100	補 委	文部科学省
要介護・死亡リスクに関連する栄養素の解明を目的とした血清疫学研究	寶澤篤	公衆衛生学分野	15,340	補 委	文部科学省
RAS/MAPK症候群の遺伝子解析と変異体の機能解析	新堀哲也	遺伝病学分野	7,020	補 委	文部科学省
蛍光性有機ナノ結晶によるバイオイメージングの高度化	馬場 耕一	視覚先端医療学寄附講座	3,120	補 委	文部科学省
びまん性軸索損傷に対する新たな経時的画像評価と高次脳機能障害回復過程の関連性検討	杉山謙	肢体不自由学分野	2,210	補 委	文部科学省
痙縮による手指脱力障害に対する模倣運動の効果	大内田裕	肢体不自由学分野	3,900	補 委	文部科学省
転写因子BachによるB細胞初期分化調節機構の解明	武藤哲彦	生物化学分野	2,730	補 委	文部科学省
条件付き小Maf群因子欠失マウスを用いた進行性疾患モデルの確立	勝岡史城	創薬科学(持田製薬)寄附講座	2,210	補 委	文部科学省
開発途上国における保健情報システムのデータの質管理モデル構築に関する研究	村井真介	国際保健学分野	2,600	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
フィリピンのコミュニティにおける小児肺炎に関する受療行動研究	玉記雷太	微生物学分野	2,990	補 委	文部科学省
衝撃波照射による心筋再生・血管新生療法の基礎的検討	武田守彦	循環器病態学分野	2,210	補 委	文部科学省
間質性肺炎急性増悪の発生機序の解明。線維化肺では上皮のバリアが低下する。	太田洋充	呼吸器病態学分野	2,210	補 委	文部科学省
視神経脊髄炎におけるアクアポリン4関連免疫病態の解明	三須建郎	多発性硬化症治療学寄附講座	2,860	補 委	文部科学省
自律神経系を介した脳が制御する糖・エネルギー代謝調節機構の解明	山田哲也	再生治療開発分野	2,730	補 委	文部科学省
リンパ節転移の予測的評価への応用を目指したVEGFR-3画像化プローブの開発	古本祥三	機能薬理学分野	2,860	補 委	文部科学省
CED技術を用いた局所免疫誘導による悪性神経膠腫治療法の開発	齋藤竜太	神経外科学分野	2,340	補 委	文部科学省
リモートセンシング技術を生体へ応用した術中脳機能マッピング法の開発	永松 謙一	神経外科学分野	2,210	補 委	文部科学省
PMCA法を用いた医療器材消毒法の網羅的評価と現実的プリオン消毒法の確立	竹内敦子	CJD早期診断・治療法開発分野	2,340	補 委	文部科学省
ヒト上皮性卵巣癌におけるマイクロRNA発現の網羅的解析	赤平純一	病理診断学分野	2,600	補 委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
ESCRT小胞輸送系による頭頸部癌悪性化制御の解析	加藤健吾	耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野	2,340	補委	文部科学省
心理・生理指標測定による安楽な入院環境に関する検討	渡邊生恵	看護アセスメント学分野	3,770	補委	文部科学省
生体におけるKeap1攻撃ストレスの時空間的分布と応答プログラムの解析	本橋ほづみ	RIセンター	3,380	補委	文部科学省
転写因子Bach2をハブとする活性酸素シグナル-遺伝子ネットワーク共役機構の解明	武藤哲彦	生物化学分野	3,250	補委	文部科学省
顔認知の諸側面の神経基盤:神経変性疾患における障害に基づく解明	森 悦朗	高次機能障害学分野	3,380	補委	文部科学省
Gタンパク質共役型受容体シグナル複合体の細胞表面発現調節メカニズムの解析	助川淳	分子薬理学分野	10,660	補委	文部科学省
電気刺激による腫瘍血流制御を応用した新癌治療法の開発-放射線・化学療法との併用	仲田 栄子	放射線治療学分野	10,920	補委	文部科学省
光感受性分子の遺伝子導入による新たな視覚系構築と再生医工学研究領域の創成	玉井 信	医化学分野	10,920	補委	文部科学省
介護予防サービスの効果評価に関する研究	辻 一郎	公衆衛生学分野	15,000	補委	厚生労働省
出生コホートによる難分解性有機汚染物質(POPs)ばく露の次世代影響の検証	佐藤 洋	環境保健医学分野	42,650	補委	厚生労働省



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
統合失調症における社会生活機能障害の評価・支援—MATRICS-CCB 日本語版による認知機能障害の評価と治療計画への応用—	曾良 一郎	精神・神経生物学分野	20,800	補 委	厚生労働省
コストロ症候群・CFC症候群類縁疾患の診断基準作成と患者数把握に関する研究	松原 洋一	遺伝病学分野	26,000	補 委	厚生労働省
地域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究	岡村 州博	周産期医学分野	26,250	補 委	厚生労働省
わが国の生活習慣病における一次予防のための運動基準策定を目的とした大規模介入研究	下川 宏明	循環器病態学分野	19,000	補 委	厚生労働省
高グリシン血症の患者数把握と治療法開発に関する研究	呉 繁夫	小児病態学分野	26,000	補 委	厚生労働省
遺伝性鉄芽球性貧血の診断分類と治療法の確立	張替秀郎	血液・免疫病学分野	19,500	補 委	厚生労働省
ソトス症候群のスクリーニング・診断システムの確立	富田 博秋	精神・神経生物学分野	26,000	補 委	厚生労働省
iPS細胞を用いた自家角膜再生治療法の開発	西田 幸二	眼科	46,280	補 委	文部科学省研究振興局
自家疾患角膜内皮細胞もしくは、他家角膜内皮細胞および他家多能性幹細胞より作製した細胞株を用いた角膜内皮細胞再生治療法の開発	西田 幸二	眼科	64,000	補 委	独立行政法人医薬基盤研究所
リード化合物Ex3の最適化	片寄 友・林 洋毅	肝・胆・膵外科	5,750	補 委	独立行政法人医薬基盤研究所

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又委託元	
21委-1総合失調症の診断、治療法の開発に関する研究	松岡 洋夫	精神科	2,300	補 委	国立精神・神経センター
21委-5脳形成異常の成立機序の解明と治療法確立のための融合的研究	呉 繁夫	小児科	2,000	補 委	国立精神・神経センター
20指-2先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築	松原 洋一	遺伝科	7,000	補 委	国立成育医療センター
20公-2成長・成熟障害の遺伝子医療全国ネットワークシステムの構築	松原 洋一	遺伝科	2,000	補 委	国立成育医療センター
20公-3循環器系シグローム解析による疾患・病態解明のための基盤研究	下川 宏明	循環器内科	2,000	補 委	国立循環器病センター
降圧と独立した新規「腎障害改善薬」の開発	米城 淑美	腎・高血圧・内分泌科	2,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発／橋渡し促進技術開発／細胞シートによる多施設臨床研究を目指した基盤システムの構築	西田 幸二	眼科	79,999	補 委	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

計87

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11-2)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Brain	Do parkinsonian patients have trouble telling lies? The neurobiological basis of deceptive behaviour.	阿部 修士	高次機能障害学分野
Circ J. 2009 Apr;73(4):767-9.	Importance of dual induction tests for coronary vasospasm and ventricular fibrillation in patients surviving out-of-hospital cardiac arrest.	安田 聡	循環器病態学分野
Circ J.	Improved long-term prognosis of elderly women in the era of sirolimus-eluting stents.	安田 聡	循環器病態学分野
Circ J	Trends in acute myocardial infarction incidence and mortality over 30 years in Japan: report from the MIYAGI-AMI Registry Study.	伊藤 健太	循環器先端医療開発学 寄附講座
Sarcoma	Multiple bone metastasis of sclerosing epithelioid fibrosarcoma 12 years after initial surgery-increasing ki-67 labeling index.	井樋 栄二	整形外科学分野
Atherosclerosis	Carotid arterial elasticity is a sensitive atherosclerosis value reflecting visceral fat accumulation in obese subjects.	岡 芳知	分子代謝病態学分野
Diabetes Res Clin Pract	Characteristics of the antibodies of two patients who developed daytime hyperglycemia and morning hypoglycemia because of insulin antibodies.	岡 芳知	分子代謝病態学分野
Curr Opin Lipidol	Circulating oxidized LDL: a biomarker and a pathogenic factor.	岡 芳知	分子代謝病態学分野
J Hum Genet	Construction of a prediction model for type 2 diabetes mellitus in the Japanese population based on 11 genes with strong evidence of the association.	岡 芳知	分子代謝病態学分野
Anal Bioanal Chem	Pattern recognition analysis for 1H NMR spectra of plasma from hemodialysis patients.	岡 芳知	分子代謝病態学分野
Intern Med	Peginterferon (PEG-IFN) plus ribavirin combination therapy, but neither interferon nor PGE-IFN alone, induced type 1 diabetes in a patient with chronic hepatitis C.	岡 芳知	分子代謝病態学分野
Neurosci Res	Wolfram syndrome 1 (Wfs1) mRNA expression in the normal mouse brain during postnatal development.	岡 芳知	分子代謝病態学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatol Res	A novel third generation bisphosphonate, minodronate (YM529), prevented proliferation and migration of hepatocellular carcinoma cells through inhibition of mevalonate pathway.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Hepatogastroenterology	Clinical characteristics of gastroesophageal reflux disease in Japan.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Blood	Distinctive localization and opposed roles of vasohibin-1 and vasohibin-2 in the regulation of angiogenesis.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Pancreas	Epidemiological Study of Pancreatic Diabetes in Japan in 2005: A Nationwide Study.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Scand J Gastroenterol	Exogenous luminal nitric oxide exacerbates esophagus tissue damage in a reflux esophagitis model of rats.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Int J Cancer	Exogenous luminal nitric oxide exposure accelerates columnar transformation of rat esophagus.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
J Gastroenterol	Expression of MSX2 predicts malignancy of branch duct intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
J Viral Hepat	Four-year study of lamivudine and adefovir combination therapy in lamivudine-resistant hepatitis B patients: influence of hepatitis B virus genotype and resistance mutation pattern.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Dig Dis Sci	Gastric Hyposecretion in Esophageal Squamous-Cell Carcinomas.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	Helicobacter pylori induces gastric mucosal intestinal metaplasia through the inhibition of interleukin-4-mediated HMG box protein Sox2 expression.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Tissue Antigens	HLA-B is the best candidate of susceptibility genes in HLA for Japanese ulcerative colitis.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
World J Gastroenterol	Identification of the layered morphology of the esophageal wall by optical coherence tomography.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Am J Surg Pathol	Intraductal tubulopapillary neoplasms of the pancreas distinct from pancreatic intraepithelial neoplasia and intraductal papillary mucinous neoplasms.	下瀬川 徹	消化器病態学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pancreas	Japanese Clinical Guidelines for Autoimmune Pancreatitis.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Int J Oncol	LIV-1 enhances the aggressive phenotype through the induction of epithelial to mesenchymal transition in human pancreatic carcinoma cells.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Ann N Y Acad Sci	Protective effect of lycopene on oxidative stress-induced cell death of pancreatic acinar cells.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
J Gastroenterol	Sporadic acute hepatitis E occurred constantly during the last decade in northeast Japan.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Gut	Standard steroid therapy for autoimmune pancreatitis.	下瀬川 徹	消化器病態学分野
Circ J	Importance of Rac1 signaling pathway inhibition in the pleiotropic effects of HMG-CoA reductase inhibitors	下川 宏明	循環器病態学分野
J Cardiovasc Pharmacol	Roles of endothelial oxidases in endothelium-derived hyperpolarizing factor responses in mice.	下川 宏明	循環器病態学分野
Ann Oncol	A phase II study of amrubicin combined with carboplatin for elderly patients with small-cell lung cancer: North Japan Lung Cancer Study Group Trial 0405.	貫和 敏博	呼吸器病態学分野
Thorax	Association between mycobacterial genotypes and disease progression in Mycobacterium avium pulmonary infection.	菊地 利明	呼吸器腫瘍研究分野
AJNR Am J Neuroradiol	Predictors of Surface Disruption with MR Imaging in Asymptomatic Carotid Artery Stenosis.	及川 美奈子	循環器病態学分野
Nippon Naika Gakkai Zasshi	[M. szulgai developed respiratory failure, after presenting with lower leg swelling, skin rash, and multiple lymphadenopathies]	五味 和紀	呼吸器腫瘍研究分野
J Am Coll Cardiol	Role of Rho-kinase in the pathogenesis of coronary hyperconstricting responses induced by drug-eluting stents in pigs in vivo.	高橋 潤	循環器病態学分野
Ann Nucl Med	Clinical significance of performing 18F-FDG PET on patients with gastrointestinal stromal tumors: a summary of a Japanese multicenter study.	高橋 昭喜	量子診断学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Biomed Mater Res B Appl Biomater	Evaluation of self-expandable, FK506-coated, covered stents in canine animal model.	高橋 昭喜	量子診断学分野
Eur Radiol	High b-value diffusion-weighted MRI for detecting gallbladder carcinoma: preliminary study and results.	高橋 昭喜	量子診断学分野
Clin Exp Pharmacol Physiol	Treatment of In-Stent Restenosis with Beraprost Sodium: An Experimental Study of Short- And Intermediate-Term Effects in Dogs.	高橋 昭喜	量子診断学分野
Lancet	Eradication of insulin resistance.	今井 淳太	分子代謝病態学分野
Nature Medicine	Cyclophilin A enhances vascular oxidative stress and the development of angiotensin II-induced aortic aneurysms.	佐藤 公雄	循環器病態学分野
Japanese journal of radiology	Comparison of cisplatin and 5-fluorouracil chemotherapy protocols combined with concurrent radiotherapy for esophageal cancer.	坂谷内 徹	放射線腫瘍学分野
日本小児科学会雑誌	筋痛を反復し新規の遺伝子変異を認めたカルニチンパルミトイルトランスフェラーゼII欠損症の1例	坂本 修	小児病態学分野
日本マス・スクリーニング 学会誌	経過中血液ろ紙分析でカットオフ値を下回った極長鎖アシル-CoA脱水素酵素欠損症の2例 血清分析の必要性	坂本 修	小児病態学分野
日本マス・スクリーニング 学会誌	新生児タンデムマススクリーニングで発見されるC3、C3/C2高値例の検討	坂本 修	小児病態学分野
脳と発達	補充酵素の増量により肺病変が著明に改善したGaucher病II型の1例	坂本 修	小児病態学分野
J Cardiovasc Pharmacol.	Contribution of Na <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> exchange current to the formation of delayed afterdepolarizations in intact rat ventricular muscle.	若山 裕司	循環器病態学分野
Hypertension	Adrenocorticotrophic hormone stimulation during adrenal vein sampling.	種本 雅之	腎・高血圧・内分泌学分野
Kidney Int	Causative vascular abnormalities for renal ischemia.	種本 雅之	腎・高血圧・内分泌学分野
Kidney Int	Limited significance of iodomethylnorcholesterol uptake in adrenal visualization.	種本 雅之	腎・高血圧・内分泌学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kidney Int	Treatment for hyperkalemia in hyporeninemic hypoaldosteronism.	種本 雅之	腎・高血圧・内分泌学分野
Biomark Insights	Angiotensin II Type 1 Receptor Blockers Reduce Urinary Angiotensinogen Excretion and the Levels of Urinary Markers of Oxidative Stress and Inflammation in Patients with Type 2 Diabetic Nephropathy.	小川 晋	腎・高血圧・内分泌学分野
Hepatology	B-cell depletion with anti-CD20 ameliorates autoimmune cholangitis but exacerbates colitis in transforming growth factor-beta receptor II dominant negative mice.	上野 義之	消化器病態学分野
Hepatology	Branched chain amino acids enhance the maturation and function of myeloid dendritic cells ex vivo in patients with advanced cirrhosis.	上野 義之	消化器病態学分野
Int J Cancer	Caffeic acid phenethyl ester decreases cholangiocarcinoma growth by inhibition of NF-kappaB and induction of apoptosis.	上野 義之	消化器病態学分野
Liver Int	Cholangiocytes as immune modulators in rotavirus-induced murine biliary atresia.	上野 義之	消化器病態学分野
Lab Invest	Compensatory role of inducible annexin A2 for impaired biliary epithelial anion-exchange activity of inflammatory cholangiopathy.	上野 義之	消化器病態学分野
Virology	Enhanced intracellular retention of a hepatitis B virus strain associated with fulminant hepatitis.	上野 義之	消化器病態学分野
Hepatol Res	Guidelines for the treatment of chronic hepatitis and cirrhosis due to hepatitis B virus infection for the fiscal year 2008 in Japan.	上野 義之	消化器病態学分野
Hepatol Res	Guidelines for the treatment of chronic hepatitis and cirrhosis due to hepatitis C virus infection for the fiscal year 2008 in Japan.	上野 義之	消化器病態学分野
Exp Biol Med (Maywood)	Taurocholate feeding to bile duct ligated rats prevents caffeic acid-induced bile duct damage by changes in cholangiocyte VEGF expression.	上野 義之	消化器病態学分野
Mov Disord	Distinct patterns of regional cerebral glucose metabolism in Parkinson's disease with and without mild cognitive impairment.	森 悦朗	高次機能障害学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Immunology	Autoimmune thyroiditis in Fc gamma receptor-deficient nonobese diabetic mice	森 弘毅	腎・高血圧・内分泌学分野
日本癌学会総会記事	食道癌患者におけるAURKAの機能的SNPsの臨床病理的検討	森 隆弘	東北がんプロフェッショナル養成プラン
日本癌治療学会誌	当科におけるGIST治療の検討	森 隆弘	東北がんプロフェッショナル養成プラン
Hum Mutat	Molecular and clinical analysis of RAF1 in Noonan syndrome and related disorders: dephosphorylation of serine 259 as the essential mechanism for mutant activation.	青木 洋子	遺伝病学分野
Am J Med Genet A	Proceedings from the 2009 genetic syndromes of the Ras/MAPK pathway: From bedside to bench and back.	青木 洋子	遺伝病学分野
Clin Exp Nephrol	Lipoprotein glomerulopathy induced by ApoE-Sendai is different from glomerular lesions in aged apoE-deficient mice.	石垣 泰	分子代謝病態学分野
皮膚科の臨床	【膠原病】部分切除およびZ形成術により治療した剣創状強皮症の1例	相場 節也	皮膚科学分野
J Am Acad Dermatol	A randomized double-blind trial of intravenous immunoglobulin for pemphigus.	相場 節也	皮膚科学分野
西日本皮膚科	Ber-EP4陽性により類基底細胞癌と鑑別した肛門部基底細胞癌の1例	相場 節也	皮膚科学分野
Cryobiology	Development and estimation of a novel cryoprobe utilizing the Peltier effect for precise and safe cryosurgery.	相場 節也	皮膚科学分野
J Am Acad Dermatol	Neuroselective transcutaneous electrical stimulation reveals neuronal sensitization in atopic dermatitis.	相場 節也	皮膚科学分野
西日本皮膚科	p63の免疫染色が診断に有用であった乳房外Paget病の1例	相場 節也	皮膚科学分野
Surgical Neurology	Acute ischemic complications following therapeutic parent artery occlusion with revascularization for complex internal carotid artery aneurysms	村上 謙介	神経病態制御学分野
AMIA Annu Symp Proc	Decision making and physician prescribing characteristics: a pilot study of Japanese physicians.	中山 雅晴	医学情報学分野



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Neurosurgery	Clinical implications of intraoperative infrared brain surface monitoring during superficial temporal artery-middle cerebral artery anastomosis in patients with moyamoya disease.	中川 敦寛	神経外科学分野
日本レーザー医学会誌	HO: YAGレーザーを用いた微小ジェットの原理開発と臨床応用:東北大学における医工産学連携有の取り組み	中川 敦寛	神経外科学分野
Int J Pediatr Otorhinolaryngol	Auditory evoked magnetic fields in children with functional hearing loss.	中里 信和	運動機能再建学分野
I J Trans Phenomena	Brain mapping method utilizing rapid cooling probe.	中里 信和	運動機能再建学分野
Clin Neurophysiol	Temporo-parietal theta activity correlates with misery perfusion in arterial occlusive disease.	中里 信和	運動機能再建学分野
日本生体磁気学会誌	くも膜下出血重症例の急性期自発脳磁界	中里 信和	運動機能再建学分野
日本生体磁気学会誌	体性感覚誘発磁界による舌神経機能障害の客観的評価	中里 信和	運動機能再建学分野
日本生体磁気学会誌	聴性定常誘発磁界反応を用いた遷延性意識障害者における聴覚残存機能評価	中里 信和	運動機能再建学分野
Cancer Sci	Newly synthesized curcumin analog has improved potential to prevent colorectal carcinogenesis in vivo.	渡邊 みか	病理診断学分野
日本外科学会雑誌	ナノスケール蛍光粒子を用いた革新的センチネルリンパ節イメージング	渡邊 みか	病理診断学分野
日本外科学会雑誌	マイクロX線CTによる腫瘍断層構造計測の試み	渡邊 みか	病理診断学分野
日本癌治療学会誌	当院における進行・再発大腸癌に対するKRAS遺伝子解析の実際	渡邊 みか	病理診断学分野
Brain Tumor Pathology	膠芽腫に対するMGMT免疫染色 予後因子としての意義	渡邊 みか	病理診断学分野
Neuroimage	Neural correlates of processing situational relationships between a part and the whole: an fMRI study.	土屋 滋	小児病態学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Epilepsy Res	Sensorimotor seizures of pediatric onset with unusual posteriorly oriented rolandic spikes.	土屋 滋	小児病態学分野
Int Immunol	The analysis of the functions of human B and T cells in humanized NOD/shi-scid/gammac(null) (NOG) mice (hu-HSC NOG mice).	土屋 滋	小児病態学分野
Neuroimage	Quantitative analysis of donepezil binding to acetylcholinesterase using positron emission tomography and [5-(11)C-methoxy]donepezil.	藤井 俊勝	高次機能障害学分野
AJNR Am J Neuroradiol	Usefulness of contrast-enhanced T1-weighted sampling perfection with application-optimized contrasts by using different flip angle evolutions in detection of small brain metastasis at 3T MR imaging: comparison with magnetization-prepared rapid acquisition of gradient echo imaging.	日向野 修一	量子診断学分野
J Gastroenterol	Alteration of correlation between serum pepsinogen concentrations and gastric acid secretion after H. pylori eradication.	飯島 克則	消化器病態学分野
Scand J Gastroenterol	Reactive nitrogen oxide species induce dilatation of the intercellular space of rat esophagus.	飯島 克則	消化器病態学分野
Dig Dis Sci	Rebamipide, a cytoprotective drug, increases gastric mucus secretion in human: evaluations with endoscopic gastrin test.	飯島 克則	消化器病態学分野
J Gastroenterol	Sustained epithelial proliferation in a functionally irreversible fundic mucosa after Helicobacter pylori eradication.	飯島 克則	消化器病態学分野
Lab Invest	Slow progressive conduction and contraction defects in loss of Nkx2-5 mice after cardiomyocyte terminal differentiation.	武田 守彦	循環器病態学分野
Hypertens Res	Diabetes mellitus accelerates left ventricular diastolic dysfunction through activation of the renin-angiotensin system in hypertensive rats.	福本 義弘	循環器病態学分野
Circ J.	Evidence for Rho-Kinase Activation in Patients With Pulmonary Arterial Hypertension	福本 義弘	循環器病態学分野
J Clin Invest	Human PTRF mutations cause secondary deficiency of caveolins resulting in muscular dystrophy with generalized lipodystrophy.	福與 なおみ	小児病態学分野

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Res	Clinical correlations between treatment with anticoagulants/antiaggregants and late rectal toxicity after radiotherapy for prostate cancer.	有賀 久哲	量子診断学分野
Int J Radiat Oncol Biol Phys	Prospective comparison of surgery alone and chemoradiotherapy with selective surgery in resectable squamous cell carcinoma of the esophagus.	有賀 久哲	量子診断学分野
J Neurotrauma	Clinical utility of diffusion tensor imaging for evaluating patients with diffuse axonal injury and cognitive disorders in the chronic stage.	出江 紳一	肢体不自由学分野
Am J Physiol Renal Physiol	Role of spinal serotonergic pathways in sneeze-induced urethral continence reflex in rats.	宮里 実	泌尿器科学分野
Eur Urol	Editorial Comment on: Preoperative Pelvic Floor Muscle Exercise for Early Continence After Radical Prostatectomy: A Randomised, Controlled Study.	荒井 陽一	泌尿器科学分野
J Clin Neurosci	Evoked magnetic fields as a tool to optimize therapeutic electrical stimulation of the sacral surface.	荒井 陽一	泌尿器科学分野
Int J Urol	Health-related quality of life in men with localized prostate cancer.	荒井 陽一	泌尿器科学分野
JAPANESE JOURNAL OF ENDOUROLOGY AND ESWL	特集1: RPLND(精巣腫瘍・尿管腫瘍)精巣腫瘍に対する後腹膜到達法での腹腔鏡下RPLND	荒井 陽一	泌尿器科学分野
Int J Urol	Burden of male stress urinary incontinence: A survey among urologists in Japan.	中川 晴夫	泌尿器科学分野
Int J Urol	Changes in prostate volume in Japanese patients with benign prostatic hyperplasia: association with other urological measures and risk of surgical intervention.	中川 晴夫	泌尿器科学分野

計114

1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2. 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記載すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 里見 進
管理担当者氏名	総務課長 富田 有一
	医事課長 小林 正行

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	病院日誌	総務課	病歴資料についてはターミナルデジタルファイリング法にて、入院は1患者1入院1カルテ、外来は1患者1ファイルで、最終診療日から15年間保存、カルテ室で一元管理している。処方せんについては、1日ごと・処方の区別ごとに管理、入院分は更に病棟別に管理している。エックス線写真については、1患者1ファイルで各診療科で管理している。その他については各部署で月毎や年度毎に管理している。
	各科診療日誌	各診療科	
	処方せん	薬剤部	
	手術記録	医事課	
	看護記録	医事課	
	検査所見記録	医事課	
	エックス線写真	各診療科	
	紹介状	医事課	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約	医事課	
入院診療計画書	医事課		
病院の管理及び運営に関する諸記録	従事者数を明らかにする帳簿	総務課	患者数関係については、月毎に集計を行い電子媒体で管理している。調剤の枚数については月毎に集計、紙・電子媒体で管理している。高度の医療の実績関係については、診療科・総務課などからデータをもらい、年度ごとに一覧を作成し紙・電子媒体で管理している。その他については、各部署で月毎や年度毎に管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課及び医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一号に掲げる体制の確保の状況及び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況 医事課	年度毎に整理し、紙媒体にてファイル保存している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 医事課	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 医事課	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 医事課	医事課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 医事課	医事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況 医事課	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 医事課	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 医事課	医事課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医薬品安全管理室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理室
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理室
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療機器安全管理室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理室

年度毎に整理し、紙媒体にてファイル保存している。

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 里見 進
閲覧担当者氏名	総務課長 富田 有一 ・ 医事課長 小林 正行
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	90.1%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	21,387人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,635人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,337人	
	D: 初診の患者の数	28,003人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 院内における安全管理に関する基本的な考え方</li><li>● 安全管理のための委員会、その他組織に関する基本的事項</li><li>● 医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li><li>● 院内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>● 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>● 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>● 患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>● その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療に関する安全管理指針に関すること。</li><li>(2) 医療の安全管理体制の確保に関すること。</li><li>(3) 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関すること。</li><li>(4) 医療の安全管理のための教育及び研修に関すること。</li><li>(5) 発生した医療事故及び医事紛争への対応方法及び情報収集の方針に関すること。</li><li>(6) 医薬品及び医療機器の安全管理に関すること。</li><li>(7) その他医療の安全管理等に関すること。</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策についての研修会（新規採用者対象オリエンテーション、中途採用者対象医療安全講習会）</li><li>● 具体的事例を取り上げた職種横断的な演習（年 5 回）</li><li>● 医療安全管理全般に関する定期講演会（年 2 回）</li><li>● その他医療安全管理に関する研修会（随時）</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 事故又はインシデント事例が発生した場合は直ちに院内インシデント報告制度に基づき医療安全管理部門へ報告すること。</li><li>● 事故又はインシデント事例の報告を受けた安全管理部門は院内マニュアルに従い事例についての情報を収集、分析を行い、問題点を把握し改善策を検討すること。</li><li>● 重大事例の発生時には院内マニュアルに従い速やかに管理者へ報告を行い、必要に応じて事故調査委員会を設置、原因の分析を行うと共に効果的な再発防止策を検討すること。</li></ul>	



⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 29 ) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>①医療にかかる安全管理のための委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療に係る安全管理のための委員会の庶務に関すること。</li> <li>②事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>③患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>④事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>⑤医療安全にかかる連絡調整に関すること。</li> <li>⑥医療安全対策の推進に関すること。</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 委員会等の組織に関する基本的事項 職員研修に関する基本方針 発生状況の報告に関する基本方針 感染症発生時対応に関する基本方針 指針の閲覧に関する基本方針 その他の必要な基本方針</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>院内感染対策のための委員会の管理及び運営に関する規程の整備を行うこと。</li><li>重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、管理者へ報告すること。</li><li>院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及びに実施並びに従業者への周知を図ること。</li><li>院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行なうこと。</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 15 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策についての研修会</li><li>(新規採用者対象オリエンテーション)</li><li>院内感染管理に則した研修 (感染対策病棟講習会、感染対策に関するDVD研修会)</li><li>感染管理全般に関する定期講演会 (年 2 回)</li><li>その他感染管理に関する研修会 (随時)</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 「院内感染対策のための指針」に則した院内感染対策マニュアルの整備及び見直し。</li></ul>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容： ○医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する研修 ○医薬品の安全使用のための業務に関する手順書についての研修 ○医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する研修	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( ①・無 ) ・ 業務の主な内容： ○院内で用いる医薬品の採用および購入に関する業務 ○医薬品の管理に関する業務 ○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する業務 ○患者に対する与薬や服薬指導に関する業務 ○医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する業務 ○他施設との連携に関する業務	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ①・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○ 医薬品安全管理室が医療安全巡視を実施 (年2回) ○ 病棟又は外来診療科への巡視を薬剤師が月1回実施 ○ 医薬品添付文書改訂に伴う注意事項についての情報を通知	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 3 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○医療機器の有効性・安全性に関する研修</li><li>○医療機器の使用法に関する研修</li><li>○医療機器の保守点検に関する研修</li><li>○医療機器の不具合等が生じた場合の対応に関する研修</li><li>○医療機器の使用に関しての法令に関する研修</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ☑・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○始業点検・終業点検・日常点検・定期点検</li><li>○施設内部点検</li><li>○外部委託点検</li></ul></li><li>上記保守点検についての<ul style="list-style-type: none"><li>① 実施状況、使用状況、修理状況、購入年の把握および記録</li><li>② 保守点検の実施状況の評価および医療安全の観点からの保守点検計画の見直し</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ☑・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○添付文書等の管理</li><li>○医療機器関連情報の病院管理者への報告</li><li>○月1回の「医療機器点検の日」実施による機器の点検及び院内の意識啓発</li></ul></li></ul>	